

2 武道場

2024 年 4 月現在、学校施設 315 校のうち、中学校 90 校、中等教育学校 1 校、高等学校 6 校の合計 97 校に武道場を整備しています。

そのうち、約 3 割が整備から 30 年を経過しています。



外観



木材を使用した内装

(1) 整備方針

武道場については、小規模校を除く中学校、高等学校を対象として、主に増築事業により整備を進めてきました。近年の改築事業では、校舎や屋内運動場との一体化や多目的教室に武道場の機能を持たせる「武道対応多目的教室」として整備を進めています。

老朽化が進む既存施設については、教育環境を適切な状態で維持するため、校舎の維持更新に合わせ必要な整備を行うこととし、各施設の状態に応じて老朽化対策や教育機能の向上を図ります。

(2) 整備手法

校舎の改築やリニューアル改修、保全整備等により施設の状態に応じて必要な整備を実施します。

(3) 概算費用

リニューアル改修や保全整備の事業費として計上します。

【武道場の整備事例】



3 プール

2024 年 4 月現在、学校施設 315 校のうち、小学校 187 校、中学校 3 校の合計 190 校にプールを整備しています。

そのうち、約 6 割が整備から 30 年を経過しています。



プール槽



プール上屋

(1) 整備方針

老朽化によりプールの大規模修繕又は更新の必要がある学校や、校舎改築工事の影響で学校プールの解体が必要となる学校は、原則、区温水プールや民間スイミングスクール等の学校プール以外のプール施設を利用した水泳授業（以下「他施設利用」という。）に移行し、学校プールは解体していきます。なお、これまで行ってきた修繕（鉄骨の塗装やプールサイドの床修繕等）は今後も実施し、学校プールが利用できるうちは、継続して利用していきます。

他施設利用への移行に当たっては、学校プールの老朽化状況のほか、学校規模や立地等の観点から、個別に検討します。

(2) 整備手法

学校プールの老朽化状況等を踏まえながら年 3 校程度を解体します。

(3) 概算費用

2024 年度から 2044 年度まで 0.6 億円/年

【学校プールの他施設利用】

大部分の学校プールは老朽化が進行しており、多額の修繕費用がかかるほか、日常的な点検が担当教職員の負担となっています。

他施設利用に移行することで、老朽化した学校プールを建て替え、維持管理していく場合と比べて約 50%の費用削減効果が見込まれます。また、試行的に実施している学校から、教職員の負担軽減のほか、インストラクターの専門的な指導による児童の技能や教職員の指導力の向上が効果として挙げられています。

一方、市内のプール施設は限られており、全ての小学校を他施設利用に移行させることはできないことから、学校プールの老朽化対策や水泳授業の在り方については、引き続き検討していきます。



区温水プール

4 給食室

2024 年 4 月現在、学校施設 315 校のうち、164 校に給食室を整備しています。

そのうち、約 7 割が整備から 30 年を経過しています。



老朽化した給食調理室



ドライシステムの給食調理室

(1) 整備方針

給食室の老朽化に対応していくに当たり、各学校の将来の使用状況を予想しながら、計画的にドライシステム¹⁸の給食室を整備していくほか、ドライ運用¹⁹を行っている給食施設の改修を進めていきます。

(2) 整備手法

ア 基本的な考え方

校舎の改築に併せてドライシステムの給食室を整備していくとともに、リニューアル改修や保全整備においてドライ運用の給食調理に必要な機能を維持させるための改修を行います。

イ 課題・今後の方向性

全ての給食室のドライシステム化には長期間を要すること、また、将来の児童生徒数の減少を想定した場合、給食調理に必要な機能の適正な配置マネジメントの観点も考慮する必要があります。そのため、上記整備手法のほか、給食調理機能を一定規模に集約することなど、持続可能な学校給食提供の在り方についても検討を進めていくことが必要となります。

(3) 概算費用

改築やリニューアル改修の事業費として計上します。

【他都市における給食調理機能集約の事例】

福岡市では、給食調理施設の老朽化に対応するとともに、学校給食の質向上などを目指すなかで、新たな給食センターを順次開設してきましたが、こうした給食料理施設では、ドライシステムのもとで、最新の調理機器や設備を活用し、安全・安心でおいしい給食を調理しています。また、施設内には、食について考え学ぶための食育コーナーを設けるほか、屋上には太陽光パネルを設置するなど、環境に配慮した運営を行っています。



福岡市第3給食センター外観



同施設内内観

¹⁸ 【ドライシステム】床に水が落ちない構造の施設・設備、機械・器具を使用し、乾いた床で作業するシステム。

¹⁹ 【ドライ運用】既存の給食室の設備仕様を生かし、ドライシステムに近い状態で給食室を使用する運営手法。

5 トイレ

2024 年 4 月現在、学校施設 315 校の全校に洋式トイレを設置しています。

一方、湿式仕上（塗床等）で老朽化が進行している学校（30 年以上改修なし）が 126 校あります。



塗床のひび割れ、剥離



床が塗床の和式便器

（1）整備方針

ア トイレの洋式化

トイレの洋式化については、学校全体の中で児童生徒数に対する必要便器数を全て洋式便器とすることで対応していますが、各学校の状況によりフロア毎の洋式化率が不足している場合には個別に洋式便器に改修していきます。

文部科学省の設計基準：児童生徒数に応じ設置（男子 1 器 / 50 人、女子 1 器 / 20 人）

イ トイレ室内環境の改善

床が湿式仕上（塗床等）のトイレは表面に臭いや水分が付着しやすく不衛生であり、また、照明や手洗い等の設備の老朽化も重なりトイレを怖がる児童生徒もいることから、トイレの室内環境についても改善していきます。

（2）整備手法

校舎の改築やリニューアル改修、保全整備等により施設の状況に応じて必要な整備を実施します。

（3）概算費用

改築やリニューアル改修の事業費として計上します。

【トイレの整備事例】



改築事例（オープンな手洗い場）



リニューアル改修事例